

「日々の理科」(第 4001 号) 2025, -7, 21

「北海道一周鉄道旅行 (7)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



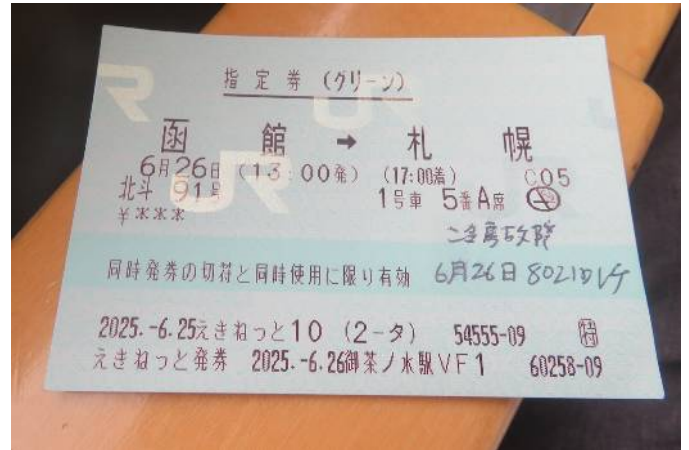
大沼公園駅と森駅で途中下車し、やっと本来乗るべき札幌行きの「特急北斗」が入ってきました。6月の北海道は観光シーズンではないのですが、「大人の休日倶楽部きっぷ」で混雑が予想されたのでしょうか。この特急は臨時列車でした。



森駅から乗ったのは、私ももう一人だけでした。もう少し賑わってほしいなと思いました。



JR 東日本の在来線特急のグリーン車は、一時期3列シートもありましたが、現在は乗車定員を増やすために、ほとんど4列に戻されています。しかし、JR北海道の特急グリーン車は3列シート(片側1列、片側2列)で、より豪華です。私の席は1列の席で、革張りシートだったので、社長さんになった気分でした。



座席は快適だったのですが、車内が何かおかしいです。すごく暑いのです。検札のカレチさん(車掌さん)に「ちょっと暑いですね」と言ったら「申し訳ございません。グリーン車だけエアコンが故障しているんです」と恐縮していました。そういえば、この車両には客がほとんどいません。カレチさんによれば、みんな普通車の空席に移ったのだそうです。

別に我慢できないほどでもなかったのですが「私はこのままでいいですよ」と言ったら、特急券に「冷房故障」の証明をしてくれました。特急やグリーン車ではエアコンが故障した場合、料金を払い戻ししてくれるのだそうです。こんな豪華な席に座らせてもらって、しかも払い戻しとは、何か申し訳ないと思いました。



列車は長万部に停車しました。このあたりでは一番大きな駅で、将来は新幹線の停車駅にもなる予定です。ホームを見たら、10人以上の人が降りて、同じぐら

いの人が乗ってきました。



長万部で函館本線（小樽経由の山線）から別れて、室蘭本線（苫小牧経由の海線）に入ります。かつては山線にも特急や急行が走っていましたが、現在の特急はすべて海線経由です。



私の座席は左側でしたが、乗客はみんな冷房の効いた普通車に逃げてほぼ貸し切りだったので、長万部からは右側に座りました。内浦湾（噴火湾）が見えるからです。この日は遠くが霞んでいて、車窓景観はイマイチって感じでした。



「クマ牧場」の最寄り駅、登別駅に停まりました。「芸をするヒグマ」で有名です。残念ながらホームには熊も、熊に似た人もいませんでした。



ターミナル駅の「苫小牧」を過ぎると、室蘭本線から別れて「千歳線」に入ります。右側に分かれていく線路が本来の室蘭本線です。



室蘭本線は石炭輸送が盛んだった路線です。かつては蒸気機関車に牽かれた長大な石炭列車が行き来していました。時刻表の地図を見ても、苫小牧から岩見沢・旭川方面へは札幌経由よりも近道とわかります。過去には函館発稚内行きの急行列車は、札幌を無視してこの路線を通っていました。今は完全に落ちぶれて、1～2時間に1本の普通列車しか走っていません。



南千歳駅に着きました。かつてはこの駅が「千歳空港駅」でした。空港の改築でターミナルが移動し、現在はこの駅から分岐した「新千歳空港駅」が北海道の空の玄関駅となっています。サアもうすぐ札幌デス！